

NHK 奈良 ならナビ

「平城宮跡の保存運動知られざる

地域住民の思い 標木の建設運動」

令和4年(2022)9月22日放送

NHK 奈良のニュース番組「ならナビ」で、今回新たに「平城宮大極殿旧社建標録」が見つかり、平城宮跡の保存運動は地域住民の思いから繋がっていることが分かった。

平城宮跡保存のカギは地域の熱意から

明治時代の保存運動を伝える文書が最近見つかりました。その中には「平城宮大極殿旧社建標録」などが含まれています。(写真右)

江戸末期から平城京の研究が始まり、関野貞が明治32年(1899)大極殿とみられる建物の基壇跡が残っていることを発表した。

これから保存運動が盛り上がり、明治34年(1901)大極殿跡に「標木」の目印が建てられたが、運動の実態がよくわからなかった。

今回見つかった文書によると、標木をつくるために村人全員が賛成し、村全域から寄付がされ標木完成式も地域の人々が総出で祝い地元の人の協力があったことがわかった。標木の建設活動によって地元における平城宮跡への理解や愛着をより深まるという側面があり全体像が史料を通じてみえてきた。

約110年前の画像では、標木の向こうに生駒山を望み広がる田畑が見られました。(右下の写真)

保存運動はその後棚田嘉十郎らに受け継がれ、100年前の大正11年(1922)に平城宮跡は国の史跡に指定された。保存が決定されたその後は、次々と新たな遺構が見つかり都の当時の姿が徐々に明らかになってきた。

平成10年には世界文化遺産に登録された。住民の人たちがこの平城宮跡が大切だと思って顕彰し保存しようとしたその気持ちが根本にあった。今後も語り継がれるようにつなげたい。



「標木」の向こうに生駒山を望み、手前に広がる田畑が見える。

写真：奈良県名勝写真帖(明治43年発行)

奈良県立図書情報館蔵